

平成25年度 協働のまちづくり町民会議提言書(2)

－子育て環境の整備について－

提言にあたって

田子町協働のまちづくり町民会議では、昨年12月に「これからの田子のまちづくりについて」の提言を行いました。今年度は、その提言の一部につき再度深く掘り下げた検討を行い、その第1回目として、この9月にタプコプ創遊村の方向性や具体的に取り組んでいただきたい事項をとりまとめ提言を行いました。

今回の提言は、第2回目として、子育て環境の整備について具体的に取り組んでいただきたい事項をとりまとめたものです。町民、事業者及び行政それぞれに要請をするものですが、町行政には、次年度以降の予算策定及び措置に当たって思慮していただきたいと考えております。

平成25年10月31日

田子町協働のまちづくり町民会議
会長 五十嵐 昭子

子育て環境の整備については、様々な観点から相乗的な取り組みが必要ですが、その成果は直ちに可視化されない事案でもあります。しかしながら、これまで実施されてきた各種施策や活動に加え、今後取り組みが可能で早急に取り組んでいただきたい具体的な一例を下記に示し、取り入れていただくことを望みます。

1 子育て支援に関する諸施策、制度等の紹介とPR

田子町においては、近隣市町村と比較しても優れた子育て支援策が講じられていることを、町内外に広く知ってもらうための体系的・具体的紹介や町の良さのPRを積極的に行うべきである。

2 支援人材組織の設置と活動要請

少子化の進展と共に、土・日曜日が休日とならない、または、夜間就業の不規則により、学校関連の諸行事に参加ができない保護者が増加している。さらに、放課後児童クラブやスポネットたっこの運営においても、保護者の協力が必要ではあるが、時間的な負担を求めることは難しくなっている。本来、学校の環境整備や維持活動等の諸行事は、PTA活動の一環とされているが、現実的にはPTA活動として位置づけるのは困難になっていくことが予想される。

このような状況に対応するためには、保護者のみならず住民全体で支えていくことが必須と思われる。このため、子育ての諸活動を支援できる方々を募り、いわゆる人材バンク的な登録制にしつつ、活動を支援できる体制を確立し運営していただきたい。

2. 1 人材確保と活動支援の一例

- ①学校行事に携われる人材(学校支援ボランティア等)
- ②学校環境整備に係る継続的な活動に携われる人材
- ③放課後児童クラブに携われる人材
- ④スポーツ少年団など各種クラブ活動の指導者的人材

3 子育てサロンの開催

子どもを持つ親などを対象として、親同士の悩みや情報交換等を行う交流会や気軽に集まれる場所の確保と運営支援をしていただきたい。

4 住宅環境整備について

若者定住促進住宅等入居者支援事業などは実施されているが、高齢・低所得者向けの施策と比して十分ではないことは否めず、その思いは子育て世代共通の認識である。このため、柔軟な視点でもって、町独自の事業として、子育て世代や定住を希望する若者を対象とした住宅環境の整備を実施していただきたい。

4. 1 住宅環境整備の具体的一例

- ①若者・子育て世代を対象とした町営集合住宅の新築(子育てサロン併設)
- ②住宅新築または空き家などの改築に要する費用の一部支援
- ③民間事業者が建築する、若者・子育て世代向けアパート等の建築費用への一部助成及び家賃助成

5 中高生の海外派遣事業(国際交流)の見直し

これまで、長期間にわたり海外派遣事業が実施されてきたが、魅力ある子育て支援の観点からも、その実施内容の見直しも行われるべきである。

5. 1 見直しの一例

- ①田子高校の生徒派遣は、毎年募集定員に満たない実態から、町内在住(出身)の高校生に募集枠を拡大する。
- ②中学生の海外派遣事業の希望者が多く、募集定員以上の応募者が毎年あることから、あるレベル以上の希望者は全員派遣できるよう定員を増やす。
- ③中学生、高校生に限定せず、一般住民にも交流の機会を増やす。

6 子どもの安全な遊び場の確保について

近年の子どもたちは、生活環境の変化に加え、少子化の進展により、家の中で遊ぶ傾向にある。その是非は別として、防災の観点からも地区ごとの遊び場を確保し、友だちや地域におけるコミュニケーション構築のための方策を検討していただきたい。